ホームページ www.asahi-net.or.jp/~sl5h-mksm/rockytop12.html

PICKIN' SINGIN' GINZA
Rocky Top かわら版 第66号

'01,5,2 発刊

Yeah.マネージャー No.25
～ミスター事件～ 作.チーフ井上

最近マネージャーはちょっとだけ言葉を間違える時がある。

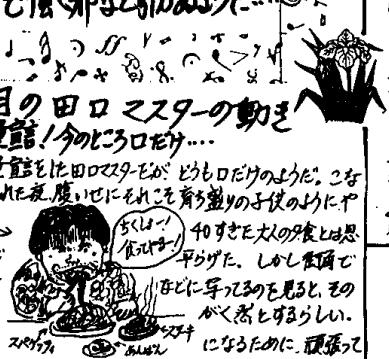
拝啓 May

春まっただ中ですが何だか寒いですねー。こないだ沖縄に行ったのですが、沖縄も今年は暑くないとの事。このままだと「冷春」になってしまうのかー。皆さん温度差が激しいので風邪など引かぬよう に…

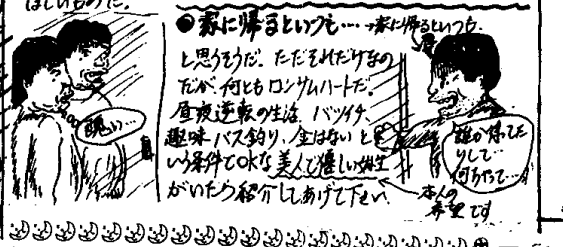
今月の田口マスターの動き

◎夏に向けて減量宣言！今のところ口だけ…

→下バむき出しの減量宣言をした田口マスターだが どうも口だけのようだ。こないだも駐車をとられた夜、腹いせにそれこそ育ち盛りの子供のように やけ食いをした。→ 40すぎた大人の夕食とは思えないメニューを自宅で平らげた。しかし食事でふと自分の姿をミラーなどに写ってるのを見ると、そのあまりのかっこ悪さに びっくりとするらしい。夏に向けて海の男になるために、頑張ってほしいものだ。



◎家に帰るといつも…→家に帰るといつも、と思うだ。ただそれだけなのだが、何ともロンサムハートだ。昼夜逆転の生活、バツイチ、趣味バス釣り、金はないという条件でOKな美人で優しい奥さんがいたら紹介してあげて下さい。



カントリーダンスを踊ろう！

最近ロッキーで踊りまくる謎のダンス集団がいる。その代表の1人、のんちゃんにカントリーダンスについて聞いてみました。

→10年程前からアメリカで一大ムーヴメントになっているカントリーダンス、日本でもここ2,3年脚光を浴びてきてカルチャースクール、マスコミでも多く取り上げられています。1時間半で平均1万キロカロリーの運動量があるのに楽しみながらできる有酸素運動なので、運動不足、太り気味と思ってる方にも最適です！第2・第4木曜日にロッキートップでのぞいてみて下さい！プリのいいカントリーミュージックで踊っているわよ

楽しいわよー！

〈銀座スクールは？〉
新宿髙島屋 阪急3F 産経カルチャースクールにて
毎月 第2・第4木曜日 PM1:30～5:00まで
入会金 ¥5,000 受講料 3ヶ月分 ¥13,500
〈お問い合せ〉
星 美子(のんちゃん) 093-276-7200 ナッコグレス 03-3913-1582

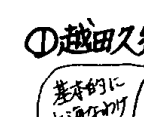
スタンレー丸山 期待の新人！ Old Father's Clockを制覇!!

実験ですよ

ロッキートップの金曜スタッフ スタンレー丸山のバンジョー修業は続いている。右田さんの教則ビデオを入手し、Old Father's Clockを制覇した模様だ。先日ロッキーで見事なバンジョーを聴かせてくれたサミーシーラーのタブ譜も入手。カールジャクソンからサミーシーラーへと展開したより困難なハードルへと自らを誘導している。結婚フェスデビューに向けて！スタンレー丸山とハウスクンテン「ボーイズ」は順調なすべり出しだ。

21世紀に残したいロッキートップ世紀末事件簿
～歴代アルバイト列伝～

①越田久栄



差別的に上海なわけだね

ロッキートップでかつてバイトした面白い奴らを紹介しよう。まずはこの男1990～1994までの大学生活まる4年をロッキートップに捧げた男、越田だ。もともとお父さんがロッキーの常連だったり、15才でバンジョーを始め高校時代からライブに行ってたこともあり、ほぼ当然の如くロッキーで働くことになった。「今までのバイトのなかで一番頭が良かったな」と小柳さんが言うほどの頭脳明晰ぶりを発揮。ほとんどそれはロボットに近かった。ボトルNoもお客さんが現れた瞬間にまばたき記憶していた。翌日のバンドのボトルとすぐさま作動！実に100本を越すボトルを名前、人の顔、飲み方マイクセッティングも1人1人もくと並べていくので気を効かせて

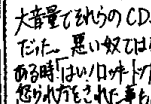
45番ロックセッ

おいセッティング！

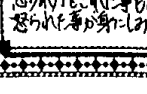
と全たくうと放す。そんな彼も大学を卒業し、ロッキーも終えて、今や転勤で上海にいる。4.5年は日本に帰ってないらしい。さぞかしブルーグラスに飢えていることだろう。

見なくても分かる

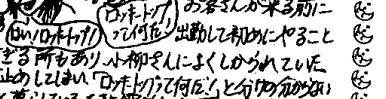
②前田和久



に憧れ、ロッキーで働きはじめた。居酒屋組やエックスも好きで大音量でそれらのCD.ビデオを流していた。



だった。悪い奴ではないがある時「はい！ロッキートップ！」と電話怒られ方をされた事もある。そんな彼も今や故郷熊本で両親、息子と暮らしている。たまに電話してて「あの時小柳さんに怒られた事が身にしみてます」という。小柳さんも「そうだろ、へへへ」と満足気だ。後になって知ることが人生あるもんだよね。



1993年から約1年ほど働いていた。シメさんお客さんが来る前に出勤して初めにやること いつも俺が軽薄すぎる所もあり、小柳さんによくしかられていた。で体言止めしてしまい、「ロックトップって何だ？」と分りの分からない怒られ方をされた。その厳しい日の中にかくれているいくつもの怒り、苦しみ、絶望感、悲しさを感じた。異国、日本という国を見てみたいとの人生だろう。でもそこは故郷なんだ…。何年も黙に酒をついでくれた赤木さんのおかげで日本と北朝鮮の近くて遠い距離を思い知らされた。そんな平壌最後の夜でした。

チーフ井上の北朝鮮紀行⑧

～平壌 最後の夜は少し寂ハイジャック犯人しいまいま北朝鮮最後の夜。ホテルの最上階(45F)バーに誘われ、労組のおっさん達とブランデーなど傾けていた。すると井上君に会わせたい人がいる とうて離れたテーブルへ。そこに居た眼光するどい男。「彼は30年ほど前、福岡のうどんを飛行機に乗ってここに来た人だ。」と紹介を受けた。「どこで？」「分かんない」しばらくしてピンときた。「よど号の？」「ターゲットに」赤木忠郎と名乗った。その人は僕に酒をついでくれた。そして日本の現在をしきりに嘆いていた。「よど号事件は僕も結ってあんなやり方しかできなかったんだ」「あの頃、日本に危惧した事が今最悪の形で表われている」「このままずるずると アメリカの傘下に下り、資本主義という金しかまかり通らない世界になるだろう。魂がぬけになり、人々は夢も愛もなくなる。」のようなこと。「ラウム」「平壌の夜景紀行」母子による絵画金賞人などもに表われている。「貧に強い。」「北朝鮮はいいよ人人の伝がり、親子の絆、礼儀正しさ…」でも「日本に帰りたい」とも言った。その厳しい日の中にかくれているいくつもの怒り、苦しみ、絶望感、悲しさ。異国、日本という国を見てみたいとの人生だろう。でもそこは故郷なんだ…。何年も黙に酒をついでくれた赤木さんのおかげで日本と北朝鮮の近くて遠い距離を思い知らされた。そんな平壌最後の夜でした。